Your Times
Interview

19号

2025年11月発行

期初に際して

47期の総括と48期の飛躍に向けた新たな挑戦

MVVの浸透を掲げ、さまざまな取り組みを進めた47期。道半ばながら、会社、そして一人ひとりの中に、確かな成長の手応えを感じました。47期の成果と課題を真摯に受け止め、48期がさらなる飛躍の年となるよう、未来に向けた展望をお話しします。

常務取締役
武田 龍之介（たけだ りゅうのすけ）

47期の目標に対する進捗

MVV浸透の現在地と次なる一手

MVVの浸透について、社内報をはじめさまざまな機会を通じて発信を続けたことで、少しずつ理解が進んでいると感じています。しかし、会社全体に広く浅く浸透させるだけでなく、まずは管理職層に深く浸透させることが不可欠だったという反省点もあります。管理職がMVVを自分ごととして深く理解し、その判断軸で動いてこそ、部下にもその精神が伝わり、組織全体に新しいムーブメントが生まれるはずです。役員間でも「最終的な意思決定のよりどころをMVVに置く」という共通認識をより強固にする必要があります。

47 期の手応え

「顧客目線」への意識変化と相談の質の向上

大きな成長を感じたのは、各部門長が自身の仕事を「事業」として捉え、採算や継続性、未来を見据えた戦略的な視点をもつようになったことです。その意識の変化は、現場の皆さんにも着実に波及し、特に皆さんからの相談の質に大きな変化がありました。「お客様のために、こういう意思決定をしても良いですか？」といった、顧客目線を起点とした相談が格段に増えたのです。
これは採用段階から私の考えに共感し、「お客様のために」との思いで入社してくれたメンバーが、その能力を発揮しやすい環境になってきたことの表れかもしれません。もちろん、元々在籍する皆さんがＭＶＶに触れて新たな気づきを得て、行動に移してくれていることも大きな力になっています。

47 期に浮かんだ課題と改善策

「自責」で捉える文化の醸成を

相談の質が向上した一方で、物事を「自責」で捉える意識には、まだ成長の余地があると感じます。何か問題が起きた際、「Ａさんがこうだったから」と他者に原因を求めるのではなく、「自分がこう動けば防げたかも」という視点をもてば、次につながる具体的な対策が生まれます。「今回はこう対処しますが、次はこう改善します」という報告までできる組織になれば、私たちはもっと強くなれるはずです。
失敗を個人の責任として追及するのではなく、組織の学びとして次に生かす。そのためにも、まずは一人ひとりが物事を「自分ごと」として捉える意識をより高めてほしいと願っています。

48 期に注力すること

透明性の高い評価制度の構築

48期は皆さんがより納得感をもって働ける環境を整えるため、人事評価制度の基礎づくりに注力します。現在は部門ごとに給与や賞与の基準が異なる状況です。そこで、全社で統一された透明性の高い給与テーブルや評価基準を設け、誰もが「どうすれば評価され、給与が上がるか」を明確に理解できる状態を目指します。これは部門間異動などを円滑にし、皆さんのキャリアの可能性を広げる上でも不可欠です。

挑戦を称賛する風土づくり

その先に見据えるのは、全員が失敗を恐れずに挑戦できる会社です。変化を恐れず、業界の先駆けとなるような新しい挑戦を続ける企業が生き残ります。「これをやったら面白そうじゃない？」という声が日々飛び交い、失敗してもその挑戦を皆で称賛できる。そのような風土を一緒に作っていきましょう！

＼園児の成長を支える新拠点／ちびっこランド遊戯室完成！

開園7年目を迎えた「ちびっこランド福住園」に、この夏、待望の遊戯室が完成しました。天候に左右されず、子どもたちがのびのびと活動できる新たな空間は、保育の質をさらに高めるだけでなく、未来に向けた当園の大きな強みとなります。

＼私が紹介します！／
信託ホーム福祉事業部 部長 兼
ちびっこランド福住園 理事長
加藤（かとう） 日出行（ひでゆき）さん

01 増築の背景・目的

安全確保と活動の幅を広げるための5年越しの計画

これまで当園には専用の遊戯室がなく、年齢の異なる子どもたちが一緒に活動する「縦割り保育」も、限られた保育室のスペースで行っていました。**3歳児と5歳児では体の大きさや発達段階が大きく異なるため、活動内容が制限され、安全面での配慮も常に必要**でした。

この状況を改善するため、**遊戯室増築の構想が始まったのは約5年前**です。駐車場のロードヒーティング設置など、費用を抑えつつ安全に関わる改修を優先的に進め、3年前から行政との具体的な協議を開始しました。増築の必要性や費用について粘り強く説明を重ね、2025年8月中旬、待望の遊戯室が完成しました。

保育園新築時

02 新しい遊戯室の広さや設備

広さを最優先し、子どもたちの自由な発想を育む空間

新設した遊戯室は約110㎡と、**戸建て住宅ほどの広さ**を誇ります。**天井を高くしてボール遊びを可能にし、床には転んだ際の衝撃を和らげるクッション材入りフローリングを採用**しました。また、**床暖房とエアコンを完備**し、季節を問わず快適な環境を整えています。あえて特定の遊具は置かず、活動スペースを最大限に確保しました。これから子どもたちがどんな遊びを生み出してくれるのか、私たちも楽しみにしています。

園庭ができたころ

03 増築によって可能になった具体的な活動

保育の選択肢が広がり、活動の質が向上！

これまでは雨天時など、室内での静かな活動が中心でした。遊戯室ができたことで天候に左右されず、いつでもダイナミックに体を動かせるようになったのは大きなメリットです。
運動会の練習でも早速活躍しており、**広いスペースで年齢別に分かれ、本番さながらの練習**ができています。**各クラスが園庭や保育室など、同時に異なる場所で活動できるようになった**ことで、保育の幅も大きく広がりました。

04 子どもたちや保育士の先生方の反応

職員の「保育のしやすさ」が、子どもたちの笑顔につながる

完成したばかりの広い空間で、子どもたちは思いきり走り回っています。0歳児も安全にハイハイの練習をするなど、**全年齢がこの空間を満喫している**様子です。
現場の保育士も大きな変化を実感しているようです。活動の選択肢が広がったことで、**年齢ごとの「横割り保育」が格段に進めやすくなり、より柔軟な保育計画を立てられるように**なりました。保護者の皆様には、2026年度の参観日や夏祭りなどの行事で、この新しい空間をご覧いただきたく思います。

Before

園庭外観

After

白い外壁の建物が遊戯室

遊戯室

遊戯室の完成に期待すること

認可園に負けない設備で、未来へ選ばれる保育園へ

この遊戯室は、子どもたちの健やかな成長を育む大切な場であり、入園を検討される保護者の皆様への大きなアピールポイントにもなるでしょう。
企業主導型保育園では珍しく、当園は認可園に劣らない園庭と遊戯室を備えています。これは、少子化が進む中で「選ばれる保育園」であり続けるための大きな強みです。今後は壁面遊具の設置なども視野に入れ、子どもたちの想像力を掻き立てるこの素晴らしい環境を最大限に活かしてまいります！